

## 2022年度 アグリコクーン 国際農業と文化フォーラムグループ ガイダンス

国際農業と文化 FG 長 溝口 勝

農学国際専攻では、産学官民連携型農学生命科学研究インキュベータ機構(アグリコクーン)に、「国際農業と文化フォーラムグループ」を主催しています。農林水産業を地域の文化を形成する核であると位置づけ、「生産は文化によって支えられている」というコンセプトが、本フォーラムグループ(FG)の活動理念です。「国際農業と文化ゼミナール」では「環境と農業」「農業と資源」「経済と食品流通」の3つのテーマの集中講義と、教員とのディスカッションで農業と文化への理解を深めます。「国際農業と文化実習」では、国内実習により日本の農家と農村について体験的に理解を深めた上で、アジア途上国における実習により、地域における問題の把握やそれらの問題解決のためのプロジェクト形成について経験を積みます。

### 国際農業と文化 FG 講義・実習科目

「国際農業と文化ゼミナール」(研究科共通科目：2単位)

- ・集中講義

「国際農業と文化実習」(研究科共通科目：4単位)

- ・国内実習「日本の農家を知る」
- ・海外実習

※ 海外実習参加の応募書類は、農学国際専攻 Web サイト(<http://www.ga.a.u-tokyo.ac.jp>)の「学生の方へ」→「書類等のダウンロード」ページに掲載してあります。

### 国際農業と文化 FG FAQ

Q1: 「国際農業と文化ゼミナール」と「国際農業と文化実習」は、両方とも履修する必要がありますか?

A1: 「国際農業と文化ゼミナール」は独立して履修することができますが、「国際農業と文化実習」を履修するためには「国際農業と文化ゼミナール」を履修する必要があります。Q3/A3を参照してください。

Q2: 「国際農業と文化実習」の国内実習だけ参加することはできますか?

A2: 国内実習の参加人数によっては可能な場合もあります。国内実習担当教員に問い合わせして下さい。ただし、国内実習のみ参加する場合は「国際農業と文化実習」の単位を修得することはできません。

Q3: 「国際農業と文化実習」の海外実習だけ参加することはできますか?

A3: できません。「海外実習」参加のためには、①「海外研究協力論」集中講義を履修、②「国際農業と文化ゼミナール」を履修、③応募書類提出、④面接と準備会合に参加、⑤国内実習「日本の農家を知る」に参加、することが必要です。

Q4: 「国際農業と文化実習」の海外実習は、農学国際専攻の「農学国際実地研究Ⅰ」として認められますか?

A4: このふたつは別科目のため、認められません。

Q5: 「海外における安全管理論」の単位をすでに修得しているのですが、「海外研究協力論」を履修・受講する必要がありますか?

A5: 今年度の新入生・進学生以外で「海外における安全管理論」の単位を修得している場合は、今年度の「海外研究協力論」のうち、JICA 講師の講義を受け、レポートを提出して下さい。詳細はFG長に相談して下さい。

Q6: 「国際農業と文化ゼミナール」と「国際農業と文化実習」で取得した単位は、修了に必要な単位としてカウントされますか?

A6.農学国際専攻修士課程においては昨年度入学者から、「国際農業と文化ゼミナール」と「国際農業と文化実習」で取得した単位は、他の本研究科共通科目と大学院共通授業科目とあわせて6単位を上限として、指導教員の許可を得て修了に必要な単位に算入することができます。なお、一昨年度までの入学者の上限は4単位ですので注意して下さい。また農学国際専攻以外では専攻ごとに上限単位数が異なるので、何単位までカウントされるのかは大学院便覧で確認して下さい。

.....

### 国際農業と文化ゼミナール集中講義

日時：6月8日（水）～6月10日（金）

プログラム（予定）

#### 1日目（6月8日）「環境と農業」

10:00～11:45 はじめに／土と水（溝口）

13:00～14:45 世界の稲作1（中西）

14:45～16:40 世界の稲作2（加藤）

16:50～18:35 総合討論「環境と農業」（司会：溝口、加藤、中西）

#### 2日目（6月9日）「農業と資源」

10:00～11:45 水産資源利用（八木）

13:00～14:45 植物資源利用（齋藤）

14:45～16:40 動物資源利用（松本）

16:50～18:35 総合討論「農業と資源」（司会：八木、齋藤）

#### 3日目（6月10日）「経済と食品流通」

10:00～11:45 日本とアジアの食文化と食品産業（荒木）

13:00～14:45 アジアの経済（鈴木）

2022年4月

国際農業と文化実習（国内実習「日本の農家を知る」）ガイダンス

担当教員：荒木徹也、中西啓仁

1. 実習のねらい：NPO「古瀬の自然と文化を守る会」の活動を手伝いつつ、会員および非会員農家や協力者から話を聞き、日本の農家と農村について体験的に理解を深める。
2. 実施日程
  - 2.1. 日帰り実習：田植え、茅葺屋根葺き替えなど、その時々の農作業に参加する。5月から7月初めにかけて4回程度行う実習に、2回以上参加すること。
    - アクセス：関東鉄道常総線小絹駅前9:35集合。小絹までは、北千住からつくばエクスプレス区間快速で守谷着、関東鉄道常総線に乗り換えて2つ目。  
【都合により集合場所を変更の場合は、改めて連絡する】
    - 持参品・服装：飲み物、軍手、タオル、着替えを持参。服装は、帽子、長袖、長ズボンで汚れても良いもの、靴は運動靴など汚れても良いもの。
    - 申し込み：4月28日（木）午後5時までに、下記事項をメールで送付：  
メールのタイトル：日本の農家を知る実習 参加申込  
氏名  
所属・学年  
本人電話・メール連絡先  
家族など緊急時電話連絡先と続柄  
その他、特記事項  
送付先：荒木徹也（aarak@ecc.u-tokyo.ac.jp）
  - 2.2. 合宿：茨城県つくばみらい市筒戸の古民家に合宿して討論。7月または8月を予定。
  - 2.3. 上記日帰り実習・合宿とは別に、日本の農家を知る機会について随時案内する。
3. 事前準備：「古瀬の自然と文化を守る会」（<http://furuseno.fureai.or.jp/>）の活動について、予め調べておく。
4. 実習レポート：別途指示する。
5. 緊急時連絡先：荒木徹也（090-8675-7153）



## 国際農業と文化実習(海外実習)ガイダンス資料

### 重要！！

- ◎ 以下の案内は、2022年3月上旬時点での計画です。COVID-19の影響により、受入れ側および東大側の状況が今後どのようになるか不明確なため、本年度の実習が中止になる可能性があります。
- ◎ 実習が実施できるかどうかの判断は9月末までに行う予定です。参加者の募集は実施が決まってから行います。そのため、以下の2.(4)以降の日程等は未定です。履修登録者には、実習の実施が決まり次第応募開始や会合等の日程についてUTASおよびITC-LMSでお知らせします。
- ◎ 海外実習実施決定後に履修登録をすることはできません。履修登録は4月に行う必要があります。
- ◎ 本科目に履修登録した場合でも、COVID-19の状況が好転せず実習が中止になった場合に備えて、本科目の単位(4単位)を修士(または博士)修了に必要な単位として見込むことはせず、他の講義等で修了要件の単位数を満たしておいてください。特に2022年度修了予定者は、実習実施時期が成績報告期限後の可能性が高いため、実習に参加した場合でも単位認定できない可能性があります。

#### 1. 実習計画(予定)

(1) 場所: マレーシア・サバ州 (受入れ大学: Universiti Malaysia Sabah)

(2) 日程: 未定 (2023年2~3月実施を検討中)

(3) 旅程(予定):

初日 15時	Kota Kinabalu 現地集合	Kota Kinabalu 泊
2日目	フィールドでの実習(Langkön)	Kota Belud 泊
3日目	フィールドでの実習(Simpang Mengayau)	Kudat 泊
4日目	フィールドでの実習(Melangkap)	Melangkap 泊
5日目	フィールドでの実習(Bundu Tahun)	Kundasang 泊
6日目	フィールドでの実習(Kinabalu Park)	Kota Kinabalu 泊
7日目	フィールドでの実習(Kota Kinabalu)	Kota Kinabalu 泊
8日目	最終プレゼンテーションの準備	Kota Kinabalu 泊
9日目	UMS-UTokyo Postgraduate Forum でのプレゼンおよびディスカッション	Kota Kinabalu 泊
10日目朝	現地解散	

(4) 費用: 条件により変動しますが、目安としては以下の通りです。宿泊費等は概算です。

- ・航空券 未確定。2020年3月以前と比較すると運賃が高くなる可能性があります。2022年3月現在マレーシア航空(成田-クアラルンプール-コタキナバル)が運行中ですが、2023年2~3月にその他の航空会社の便があるかどうかは現時点では不明です。
- ・宿泊費 約25,000円(1泊2,500円前後×9泊、2人1部屋で宿泊で計算した場合)
- ・食事 約25,000円(1日当たり2,500円×10日間で計算した場合)
- ・その他 未確定。バスレンタル代、Kota Kinabalu 空港<->ホテルのタクシー代、入場料、お土産代など。

## 2. 海外実習の参加要件(下記すべてを満足すること)

(0) 2022 年度「国際農業と文化実習」の履修登録

(1) 「海外における安全管理論」を履修登録して単位取得

(2) 「国際農業と文化ゼミナール」を履修登録して単位取得

(3) 「日本の農家を知る」実習に参加

(4) 応募書類提出

・応募書類：ICT-LMS から入手してください。実施が決まり次第アップロードします。

・提出期限：A1 ターム中(未定)

・提出先：ICT-LMS

(5) 面接に出席(応募者多数の場合は、応募書類と面接により参加者の選抜を行います)

・日 時：A1 ターム中(未定)

・場 所：未定

(6) 事前勉強会・渡航オリエンテーション会合に参加

・日 時：A1、A2 ターム中(未定)

・場 所：未定

・注意事項:この事前勉強会では、実習中の訪問地に応じた 3 ~ 4 の調査テーマに参加者をグループ分けします。各調査テーマグループのメンバーは、渡航するまでにそれぞれのテーマに関する資料収集やミーティングを自主的に行い、現地で行うインタビューの内容をあらかじめ考えたり、9 日目にマレーシア・サバ大学で行うプレゼンテーションの下準備をしてください。

(7) 最終確認会合に参加

・日 時：A2、W ターム中(未定)

・場 所：未定

(8) 帰国報告会に参加

・日 時：帰国直後に実施予定(未定)

・場 所：未定

## 3. その他

(1) 大学院便覧等には「国際農業と文化実習」開講タームが S1 ~ A1 タームと表記されていますが、今年度の海外実習関連の開講タームは通年(S1 ~ W ターム)となります。

(2) 受け入れ体制の都合により、実習参加人数には上限があります。応募者多数の場合は、応募書類と面接により選抜を行います。

(3) 上記 2.(6)のオリエンテーションで人数や興味に応じてグループ分けと渡航までの準備を指示します。渡航までにグループごとに事前学習および活動計画策定、プレゼンの準備などを実施してください。2.(7)の会合で最終確認します。

(4) 2021 年度の海外実習参加者となった学生で、2022 年度の海外実習に参加を希望する場合は、2022 年度の本科目に履修登録してください。また、2.(1)および(2)を 2021 年度に単位取得した 2022 年度の M2 学生は、2022 年度に再履修の必要はありません。

(5) 海外実習について不明な点がある場合は、海外実習担当教員(露木: tsuyuki@fr.a.u-tokyo.ac.jp)に問い合わせてください。